体育科

（研究主題）

主体性を育み、運動への有能さを認知することができる体育授業の工夫

1　研究主題について

(1)　主題設定の理由

本校体育科では、その時代に活躍できる人材を育成するために体育科の授業を通して子ども達を全力で育ててきた。今の時代は、VUCA や Society5.0 と言われるように、変化が激しく、複雑な構造を伴った世の中であり、一人一人の幸せの形や社会の中で求められる人物像が多様化してきている。そんな世の中に生きていく子ども達は、自分の何が幸せか、自分はどうありたいのかと常に自分の周りの環境や自分を捉え、未来に向かって進んでいく必要がある。そこで大切なのは、「学び続けるための主体性を育むこと」と、自分は「できる」といった「有能さを認知すること」だと考えている。

なぜ、「学び続けるための主体性を育むこと」が大切だと考えるか。それは、学校教育は人生の一部に過ぎず、学びは生涯にわたって続くものだと考えるからだ。学校教育を終えた後も、新しい環境や課題に適応し続けるためには、学び続ける姿勢が必要である。学び続けるための主体性を育むことで、子ども達は未知の問題や複雑な構造を伴った問題に直面しても自分で解決策を見つけようとし、成長し続けることができる。「学び続けるための主体性を育むこと」は幸せに生きていくための基盤となる力を育むことだと考える。

また、なぜ「有能さを認知すること」が大切だと考えるか。それは、有能さを認知すると、自分にはできるという思いが高まり、この先、直面すると考えられる課題や困難に対して意欲的に挑戦することができると考えるからだ。このように、「有能さを認知すること」は、子ども達が未来に向けて自己実現を図るための重要な基盤だと考える。

主体的に学び続けることで、子ども達は自分で課題を設定し、それに取り組んで解決するという体験を積み重ねる。この体験は、「自分にはできる」という感覚を強化し、結果として自分の有能さを認知することにつながると考える。また、子ども達の学び続けるための主体性が育っていくと、自分の学びを振り返り、評価する機会が増え、自分がどれだけ成長したか、どのような力があるかを認識することができる。つまり、「学び続けるための主体性を育むこと」が「有能さを認知すること」につながると考える。

我々、体育科は体育の授業を通して、子ども達の学び続ける主体性を育み、子ども達が運動への有能さを認知することができるようにする。そうすることで、変化が激しく、複雑な構造を伴った世の中でも、子ども達は、幸せに向かって自己実現し、これからの時代に活躍することができると信じている。

本研究は「小学校体育授業において、学び続けるための主体性を育むために、必要なことは何か」と「学び続けるための主体性が育まれた子どもは、運動への有能さを認知することができるのか」を明らかにすることを目的とした研究である。

(2)　体育科で目指す児童像

子ども達の学び続ける主体性を育み、子ども達が有能さを認知することができた姿を目指す。「学び続けるための主体性」が育まれた姿とは、子ども達が学びの進め方を理解し、自ら学びを進めていく自律的な姿のことである。本校体育科では、この学びの進め方を「課題解決サイクル」と示している。（図１）「計画」、「実行」、「振り返り」といった活動を誰に言われるで

もなく、子どもが自分自身でくり返し行うことができる姿を目指す。

「有能さを認知する」ことができた姿とは、自分は「できる」といったように、人が自分自身の資質や能力を信じることができる状態である。体育の授業を通して、運動への有能さを認知するようにしていきたいと考える。運動への有能さを認知している感覚を本校体育科では運動有能感（1996　岡澤）の尺度を使って調査をしている。運動有能感は、自分は運動ができるという心もち（身体的有能さの認知）、やればできるようになるという心もち（統制感）、周りに受け入れられているという心もち（受容感）で構成されている。

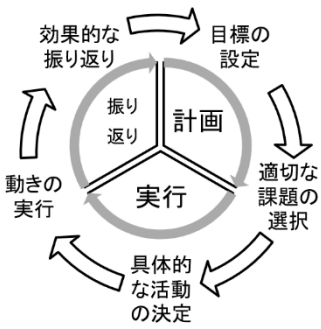


図１　課題解決サイクル

(3)　本校研究主題との関わり

学校研究主題「漸進する学び」 目指す児童像「学び続ける子」

本校の研究主題が示す「漸進する学び」はその児童像からもわかるように、自らの「やりたい」という思いをもって問題を解決したり、目的を達成したりしながら自走し、次の学びに向かう子である。これは本校体育科の目指す「学び続けるための主体性」が育まれた姿とほぼ同様であり学校研究と関わっている。

２　主題にせまるための研究内容及び方法

本校体育科研究主題にせまるために以下のような視点と手立てを講じ、実践を行う。

(1)　視点

視点 子どもが主体的に学びを進めることで、運動への有能さを認知できるようにする。

(2)　手立て

①子どもが自己決定して学習を進められるような展開の工夫をする。

子どもが自分の興味や好奇心に基づいて目標を決める機会が増えると、学びに対する意欲を内発的に引き出し、自分で目標を達成しようとする学習に対して積極的な態度を育てていくことにつながる。そのため、課題解決サイクルにおける「計画」場面や「実行」場面において、子どもが目標や課題、活動を自分で決めて学習を進められるようにする。

②子どもが期待(やればできそう)や価値(やることに価値がある)を感じる教材の工夫をする。

期待に関しては、全ての子どもたちが技能差に関係なく「やればできそう」「楽しそう」と感じられる教材の工夫を行っていく。価値に関しては、その行動の結果が自分（自分達）にとってどれだけ魅力的か、または重要かを示すものである。それは児童の欲求に基づいて決まってくると考える。

③子どもの必要感を見極めた教師の関わりの工夫をする。

子どもが自分自身の意思で新しい知識や思考を欲したタイミングで教師が関われるようにする。自分自身の意思で学びたいと感じた時に学ぶことができる環境は、子どもが自己決定していると感じやすくなる。また、子どもにとって意味のある活動となりやすい。

④成功や失敗に対してだけではなく、子どもの努力に対するフィードバックをする。

子どもが主体的に学んでいくためには、行動の結果は、子どもの外側にあって調整できないもの（運、課題の難易度）ではなく、子どもの内側に合って調整できるもの（努力）と感じる必要がある。そうすることで、成功や失敗した際、自分の学習の過程を理解し、次はどうすればよいかと考えられるようになる。

＜検証方法＞ (1) 学び続けるための主体性が育まれたかどうか ・自己決定した内容を学習カードなどに記述し見取る ・自己決定的であったかを単元の前後に自律性を測る尺度(藤田，2009)を使い調査する。 ※単元前後、１学期と３学期の年２回の調査

(2) 運動への有能さを認知することができたかどうか

・運動有能感（岡澤ら 1996）で調査する

運動有能感の先行研究によると日本での調査では、年齢が上がるにつれその数値が下がるなど、単純に数値の向上だけで見取ることが難しい。そこで、本校で平成２８年度から継続して調査をしている数値との比較・検証をすることでその高まりを確認していく。

※単元前後、１学期と３学期の年２回の調査

表１　運動有能感調査項目

体育科　質問紙　１～２年生

このアンケートはテストではありません。正直に答えてください。あてはまるものに○を付けましょう。

		そう思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	ぜんぜん思わない
1	ほとんどのうんどう（たいいく）は、じょうずにできます	5	4	3	2	1
2	すこしむずかしいうんどう（たいいく）でも、がんばればできるとおもいます	5	4	3	2	1
3	たいいくのじかん、いっしょにしようとさそってくれるともだちがいます	5	4	3	2	1
4	がんばれば、ほとんどのうんどう（たいいく）はじょうずにできるとおもいます	5	4	3	2	1
5	うんどう（たいいく）がよくできるとおもいます	5	4	3	2	1
6	たいいくをしているとき、ともだちががんばれとおうえんしてくれます	5	4	3	2	1
7	たいいくをしているとき、せんせいががんばれとおうえんしてくれます	5	4	3	2	1
8	できないうんどう（たいいく）でも、あきらめないでれんしゅうすれれば、できるようになるとおもいます	5	4	3	2	1
9	うんどう（たいいく）がとくいなほうです	5	4	3	2	1

体育科　質問紙　３～６年生

このアンケートはテストではありません。正直に答えてください。あてはまるものに○を付けましょう。

		そう思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	ぜんぜん思わない
1	運動能力がすぐれていると思います	5	4	3	2	1
2	たいていの運動はじょうずにできます	5	4	3	2	1
3	練習をすれば、かならず技術はのびると思います	5	4	3	2	1
4	努力さえすれば、たいていの運動はじょうずにできると思います	5	4	3	2	1
5	運動しているとき、先生がはげましてくれたり応援してくれます	5	4	3	2	1
6	運動をしているとき、友だちがはげましてくれたり応援してくれます	5	4	3	2	1
7	いっしょに運動しようとさそってくれる友だちがいます	5	4	3	2	1
8	運動のじょうずな見本として、よく選ばれます	5	4	3	2	1
9	いっしょに運動する友だちがいます	5	4	3	2	1
10	運動について自信をもっているほうです	5	4	3	2	1
11	少しむずかしい運動でも、努力すればできると思います	5	4	3	2	1
12	できない運動でも、あきらめないで練習すればできるようになると思います	5	4	3	2	1

表２　本校の運動有能感調査

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	**平均値**
1年	50.55	52.54	52.84	51.96	46.81	52.57	51.67	55.28	**51.78**
2年	51.66	52.02	52.15	55.21	51.9	53.93	54.08	57.27	**53.53**
3年	53.04	51.14	51.57	52.44	53.07	50.7	52.13	51.35	**51.93**
4年	49.76	50.31	49.25	50.36	50.55	51.2	49.98	50.62	**50.25**
5年	47.85	49.45	49.13	46.92	46.79	48.26	50.49	47.98	**48.36**
6年	46.49	47.25	46.74	47.86	45.14	42.92	47.4	49.75	**46.69**
全校	50.09	50.45	50.47	50.72	49.05	49.93	50.96	52.04	**50.42**

（浅間　聖也）